

社会教育施設の自己紹介

【施設名称】



ミュージアムパーク

茨城県自然博物館

【施設概要】

ミュージアムパーク茨城県自然博物館は、茨城県最大の自然環境保全地域に指定されている菅生沼のほとりに約 16 ha の広大な自然を利用して平成 6 年 11 月 13 日に開館した博物館です。

当館は、「通勤圏の大自然」「見て、聞いて、触れて、わくわくミュージアムパーク」というキャッチフレーズのとおり、都心から 1 時間の近さにありながら、菅生沼やその周囲の雑木林など豊かな里山の自然に五感を使って直接ふれあうことができる体験型博物館です。毎年約 40 万人の来館者があり、県内はもとより千葉県や埼玉県、東京都などからも数多くの方に来館いただいています。



当館のシンボル「松花江マンモス」

当館では、入口を入るとシンボルである全長 9m にもなる「松花江マンモス」や全長 26m の「ヌオエロサウルス」の巨大な全身骨格標本(複製)が迎えます。展示室は、進化する宇宙(第 1 展示室)、地球の生いたち(第 2)、自然のしくみ(第 3)、生命のしくみ(第 4)、人間と環境(第 5)、ディスカバリープレイス(茨城の自然)からなる常設展示を、植物・動物・地学の面から体系的に展示しています。また、年 3 回実施される企画展は、タイムリーな話題を中心に、さまざま

なテーマで人気を支える展示となっています。

さらに、当館はミュージアムパークと冠するのとおり、広い野外施設を持っており、自然を直接見たり、触れたり体験できるところに特徴があります。今では、なかなか見ることが少なくなった里山の自然を次世代につないでいくために、自然豊かな地域性を生かした博物館でありたいと思います。

ぜひ一度、見て、聞いて、触れて、そしてさまざまな自然にワクワクしてください。



菅生沼(左上)に隣接した博物館全景(右上は博物館の野外施設)



自然の雑木林を生かした野外施設

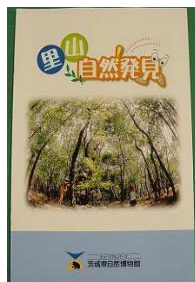
【特色ある取り組み】

当館では、平成16年度に10周年を迎えたことを機に、「博物館進化基本計画」を策定し、その計画に沿った取り組みを行っています。ここでは、その中から当館独自の具体的な取り組み事例を紹介いたします。

その1 里山環境サポート事業

当館と里山保全活動に取り組む団体が連携し、身近な里山に関心を持つ市民を増やし、里山保全活動に関わる人材や団体の育成を支援する事業です。

里山での環境学習プログラムを作成したり、里山活動に関するイベントを実施しています。



プログラム集



里山体験イベント(シイタケづくり)

その2 スクールミュージアム整備事業



スクールミュージアム設置状況

当館と学校が連携し、学校の余裕スペースを利用して学校独自のミニ博物館を整備する事業です。「スクールミュージアム」に展示する資料は、当館からの基本的な資料を最初に用意する以外は、学校での総合的な学習の時間や理科授業を利用し、当館学芸員による出前授業やテレビ付き携帯電話を利用して館と双方向通信しながら、実際に子どもたちが採集した資料で作り上げていきます。

学校の地元でスクールミュージアムサポーター



出前授業での昆虫採集

その3 ジュニア学芸員育成事業



ジュニア学芸員による展示解説

博物館に興味や関心を持つ中学・高校生の対象に、自然博物館史研究、博物館展示解説、博物館学的研究などの分野からテーマを選択し、博物館での直接活動をとおして研究し、その結果を当館来館者に解説するなど、実際に当館で学芸員と同じように活動する事業です。

この事業を通じて、将来、博物館ボランティアなど当館運営のパートナーとなる人材の育成を図っています。